

三重県鳥羽市で東北大学減災ポケット「結」プロジェクト出前授業を実施しました (2018/7/12-13)

テーマ：津波防災，防災教育，減災意識啓発
場所：三重県鳥羽市内

平成30年7月12日と13日に三重県教育委員会と鳥羽市教育委員会の連携で、東北大学減災ポケット「結」プロジェクトによる出前授業を三重県鳥羽市内で実施しました。災害科学国際研究所からは保田真理 プロジェクト講師（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）が参加しました。1校目は鳥羽市内の離島である答志島にある答志小学校で、校庭と海が防潮堤で仕切られているような海岸沿いの小学校です。児童は津波警報が出たら裏山にある公園に避難することになっています。2校目は鳥羽市南部の相差地区にある弘道小学校です。弘道小学校は避難所となっていますが、浸水域に入る可能性もある地域です。1707年宝永地震津波や1854年安政地震津波では大きな被害を受けた地域ですが、地元に残る伝承は少なく今回の出前授業を受講したことで、地域が受ける被害に関して児童も教師も認識を新たにしたいようです。出前授業のコンテンツとして作成された、研究成果や知見をわかりやすく可視化したCGや実験映像を見て、改めて危険性を認識していました。後半のスタンプラリー形式のゲームでは、いざという時の行動や備えは、自分自身でしっかり考える大切さを学習しました。これから災害が懸念される地域に東日本大震災の体験と調査研究から判明した教訓を伝え、児童とその家族が防災・減災を考えるきっかけを作ることができたのではないかと考えます。



答志小学校での出前授業の様子



弘道小学校での出前授業の様子

文責：保田真理（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）